

つくば市春日地区における一時停止標識を有する交差点の視認性

長崎 宏輝（地球科学専攻）

1. 研究目的

つくば市春日地区における一時停止標識を有する交差点における左右の視認可能距離を明らかにし、交通事故履歴やミラー設置状況などを考慮し、分析をする。

2. 研究対象地域

つくば市春日4丁目内のすべての一時停止標識を有する交差点を対象とする。春日4丁目は筑波大学に隣接する地域であり、自動車交通のみならず学生などによる自転車交通も多い。しかし、域内は交通信号未設置交差点が多く、さらにアパートが立地しており、見通しが悪い交差点が多い。

3. 研究手法

各交差点の停止線から左右の写真を撮影し、それから視認可能な地点までの距離を交差点の中心から測定する。交差点の視認距離を上げるために設置されているミラーの有無を確認する。また

「いばらきデジタルマップ」を使用し、春日4丁目内で発生した事故について、関連するものを抽出する。

4. 考察

アパートが集中する大学に隣接する交差点では視認性が非常に悪い。さらに、ミラー設置がほとんど行なわれていない。そのため、事故が多発している。一方、大学から比較的距離のある地域では、広大な駐車場や農地が立地しているため、視認可能な距離は長い。2車線を有する道路が交わる交差点では比較的広く土地が確保されており、見通しは良い。しかし、交差点角の商店ののぼりや駐車車両により、見通しが本来より悪くなっている交差点があることがわかった。ミラーの設置状況に関しては、交通量に関係なく設置がなされ

ているが、視認度の低い交差点であっても設置されていない箇所があった。



図1：左方向の視認可能距離



図2：右方向の視認可能距離